

シリーズ
水辺の鳥たち
(メジロ)

名前の通り目の周りが白い、スズメよりやや小さな鳥です。メジロという小笠原諸島固有種の鳥もいますが、見るには母島に行くしかありません。細長い嘴と舌で梅(写真)や桜、椿等の花の蜜を舐め、小さな木の実や虫を食べています。暑い時期は山の方へ移動するので秋～春に多く見られ、エナガやシジュウカラと団体行動することも。春が近づくと、きれいな声で囀り、つがいの姿も見られます。(2022/3/11 火之橋脇で撮影:村上久和)

〈リレー連載・2〉

一緒に描きませんか!井頭の水辺の未来
—「区立大泉井頭公園の整備」に向けて—

住民参加による水辺公園
づくりを探る

前号では、水辺の未来について地域の皆さまからたくさんの声を寄せていただきたく呼びかけました。今号では、住民参加による水辺公園づくりはいかにあるべきかを探るために、大熊孝氏の著書から切り取ってご紹介します。

* * *

つうせんがわ

新潟市にある通船川という小さい川は、水質が悪化して人工的な川になってしまったが、都市の貴重なオープンスペースとして、鳥が休み、釣り人が楽しむ、ささやかながら水辺の魅力を残している川でもあった。川沿いには小中高校が点在し、多くの生徒たちが川と関わることを望んでいた。そこで、川を再生しようと市民が立ち上がったが、活動は広がっても、単なるボランティ

アの集まりでしかなく公的な認知はなかった。

これを一步前進させたのが、新潟市東地区公民館の事業「まちづくり・通船川環境講座」であった。42回の講座で3,095人が参加。公民館との連携は、地域住民から安心感をもって受け入れられるようになった。さらに、町内会を主体とした地区を考える会とも連携して「通船川ネットワーク」が組織され、その後の活動の母体となった。

1997年の河川法改正を受け、新潟県と新潟市の呼びかけで、流域の自治会、企業、市民団体などが一緒になって「通船川・栗ノ木川下流再生市民会議」が発足した。河川の改修を、市民と一緒に根本から考え直そうとしたの

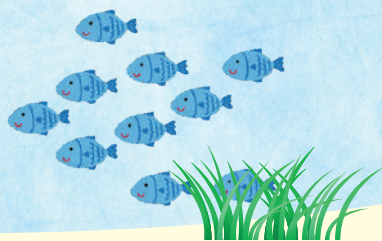
がこの会議で、河川改修への住民参加としては全国に先駆けたものだった。

市民が加わった合意形成はワークショップで実現した。従来、一方的に計画案を練り実施してきた行政側と、陳情という形でしか意見を出してこなかった市民・住民が、互いに成長しながら時間をかけて話し合い、その結果を修正しながら実行していく、それは、地域住民一人ひとりの思いがその土地に刻印され、“ふるさと”として実感する時空間が形成されることになる。新しい対話型の民主主義が創られ始めている。これこそ今までの多数決原理に代わる民主主義であろう。

(大熊孝『技術にも自治がある』2004より)

(菅沢 博)

第20回白子川源流まつりが開催されました！



コロナ禍で今年も開催が危ぶまれた源流まつりでしたが、会員皆の熱い思いで3年ぶりに“まつり”が戻ってきました。しかしながら例年通りの実施は難しく、規模を縮小し、感染対策をしっかりとっての開催です。

10月23日(日)、快晴の空の下、12時にスタート！『源流まつり』を楽しみにしてくれていた子どもたちや地元の皆さんが大勢駆けつけてくれました。(ポイスカウトの方の見立てによれば、来場者は2000名超)

20回記念の目玉として新たなイベント『白子川源流探検ツアー』を実施し、たくさんの親子が参加しました。実際に川に入って歩き、川の生きものを探したり、捕まえたりして、初体験の子どもたちも大いに自然を満喫していました。

ステージでは『おらが川、おらが村』を語る対談や『はらっぱ音楽隊』『ゴージャックサタデー』などの素敵な演奏があり、初企画の『白子川クイズ』では小学生20名が参加し、早押しアンサーで盛り上がりました。



源流探検ツアー



白子川クイズ



おらが川、おらが村



はらっぱ音楽隊

定例活動報告 〈2022年8月～2022年11月〉

日時 (調査開始時間)	天気	気温 (°C)	源流部 流速 (km/h)	源流部 流量 (L/秒)	調査地点	水温 (°C)	水深 (cm)	pH	COD (mg/L)	主な活動特記事項	参加 会員数	収集ゴミ 90L (袋)
2022/9/25 (13:40～)	晴	31	0.36	175	源流部	17.0	18	欠	0～2	●区から管理を任されている源流部東端の「道路植栽マス」の草刈りと低木剪定作業を参加者総出で実施	17	42
					井頭橋	16.0	15	欠	0～2			
					井頭～火の橋中間	17.0	36	欠	0～2			
2022/11/27 (9:50～)	晴	17.3	0.45	37.5	源流部	16.3	9	欠	6	●源流部の“冬枯れウキヤガラ”の刈り取り作業を行った ●源流まつりで入会した新メンバー3名が初参加・初川体験	19	35
					井頭橋	17.3	14	欠	5			
					井頭～火の橋中間	17.3	30	欠	6			

※ COD とは、水の汚れを示す指標で、2は最低値できれいな水、4～6は少し汚れている、8以上は汚れている。当会では、低濃度簡易測定キットで判定している。

※ pH とは、酸性とアルカリ性を示す指数で、pH7が中性、7より大きいとアルカリ性、小さいと酸性。

※表の(－)は水がなくて測定不能、(欠)は測定機器の不具合等で欠測の意

◆8月は雨天により中止、10月は源流まつり開催にて見合せ。

◆水辺の会では、定例活動において水質調査とともに放射線測定(2ヶ所で10分ずつ、単位は $\mu\text{Sv/h}$)も行っており、その結果は以下のとおり。

9月: 0.06(源流部) / 0.07(井頭橋) 11月: 0.07(源流部) / 0.10(井頭橋)

『生きものコーナー』は珍しいアズマヒキガエルが登場したりして、興味津々の子どもたちでいつもいっぱい。人気のアメリカザリガニでは初めてさわる子もいて、恐る恐るでしたがよい体験になったかな…。

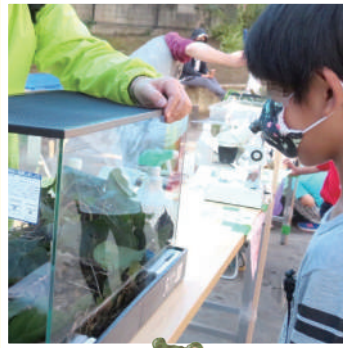
『展示パネルコーナー』では白子川の野鳥やホトケドジョウの紹介などに多くの方々が見入っていました。

ご支援いただいたボーイスカウト練馬17団や白子川写真倶楽部をはじめ地元の皆様には、心から感謝申し上げます。

来年はフルバージョンで開催できたらいいですね。また白子川で会いましょう！ (植原 正幸)



ザリガニいたよ



カエル発見!



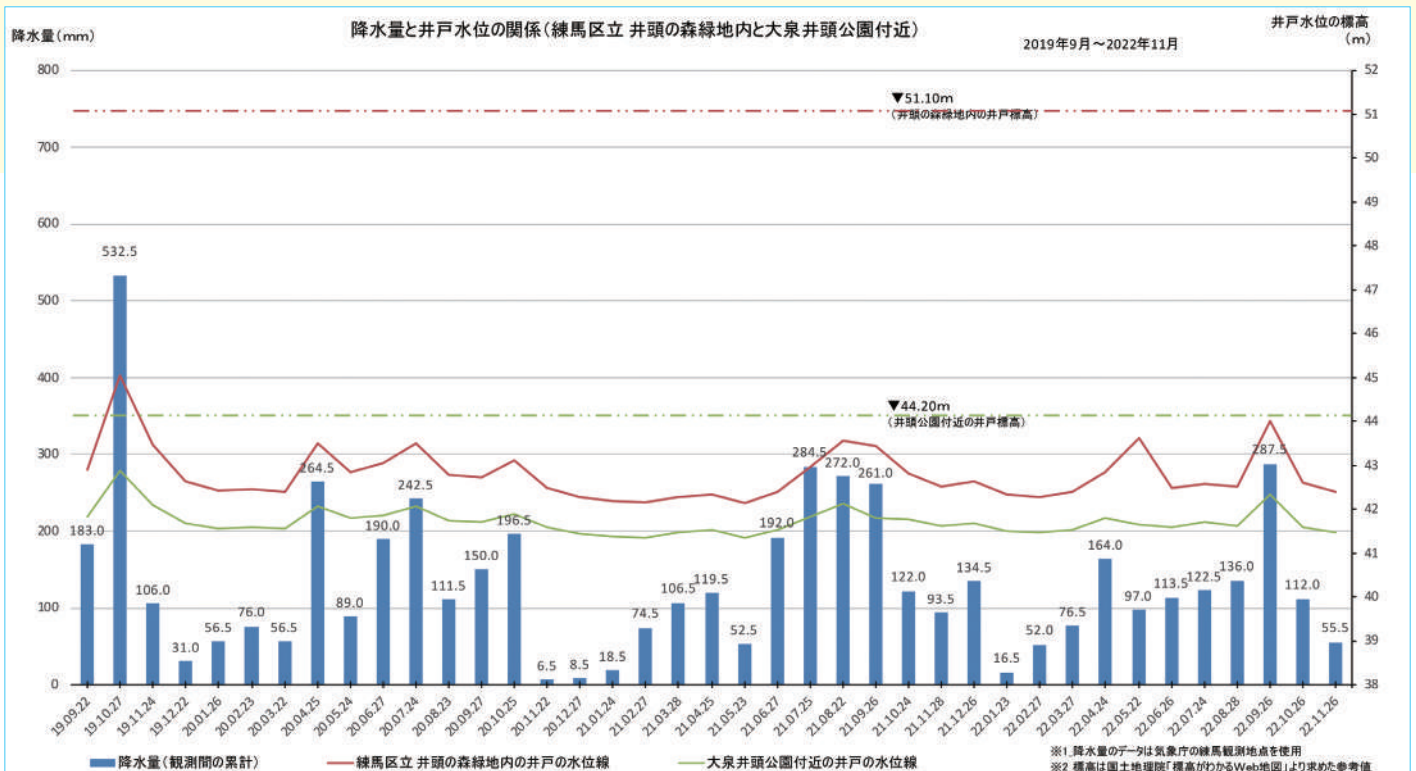
ゴージャスサタデー



一番人気はザリガニ



展示コーナーにて



活動記録

2022年9月～12月

9月

10(土) web“源流の森”研究会
web 運営会議

13(火) 大泉南小4年生の川体験

14(水) 会報 66 号発行

16(金) 大泉南小4年生の川授業

24(土) リアル運営会議

25(日) 定例活動

27(火) 大泉南小4年生 A 班の
「川を守る活動体験」

29(木) 大泉南小4年生 B 班の
「川を守る活動体験」

10月

11(火) 大泉第二小2年生
まち探検受け入れ

16(日) WE LOVE 白子川の会

23(日) 第 20 回白子川源流まつり (3
年ぶり規模縮小開催)、展示は
11/6 まで継続

31(月) 泉新小2年川体験 (水道橋下の
白子川で)
麒麟福祉財団の助成金申し込み

11月

6(日) 源流まつりの展示終了

12(土) web“源流の森”研究会

20(日) WE LOVE 白子川の会

26(土) リアル運営会議

27(日) am ウキヤガラを機械刈り、
pm 定例活動

29(火) 関中1年生の川体験

12月

10(土) web“源流の森”研究会

18(日) WE LOVE 白子川の会

25(日) 定例活動



TOPIC

関中1年生が白子川を来訪

川体験 & 川学習を楽しみました!

11月29日(火)「練馬学習」のテーマのうち「自然」を選択した29名が、石神井公園経由(野鳥の会受入)で白子川を初体験。源流部で湧水と下水吐け口を観察後、井頭橋下

流で魚獲りを体験。その後学校に戻り、視聴覚室で「水のホントの常識」「2022年問題と2025年問題」「下水道の構造と川の関係」をテーマに川学習を行った。



水辺の会絵葉書・ 新版できました

当会オリジナル白子川グッズの一つである絵葉書の新版が完成し、源流まつりにてお披露目をしました。一部リニューアルして、お馴染みの萩原和雄さんのスケッチ6種、会員撮影の写真4種の計10種となっています。宛名面には当会の簡単な紹介も載せています。



お礼状や、ちょっとした季節のお便りなどにぜひご活用ください。

1枚=100円 10枚セット=800円

活動予定

2023年1月～4月

*毎月第3日曜日に WE LOVE 白子川の会を、

毎月第4日曜日に定例活動(“川を楽しむコーナー”併設)を、
予定しています。

(定例活動は井頭公園で13時半から。どなたでも参加できますが、新型コロナの感染状況により、自粛または縮小する場合があります。)

***** 編集後記 *****

今号から紙面デザインがリニューアルです。これまでレイアウトを担当してくださった会員の菊地千恵子さんがお仕事の都合で退任され、昨年本会の「設立20周年記念文集」の装幀・本文デザインを引き受けてくれた井之上聖子さんが、そのご縁で「源流通信」にも関わってくださることに。デザイン変更を機に題字も変わりました。今号からの題字は、会員の竹内尚代さんが書かれたものを井之上さんがアレンジしたものです。3年間ご多忙のなか紙面を作ってくれた菊地さん、長年にわたり題字を提供してくださった宮本沙海さん、ありがとうございました。デザインに負けないよう、読み応えのある通信を目指していきますので、これからもよろしくお願ひ致します。(日)

発行 白子川源流・水辺の会

<https://shirakogawa.tokyo/>

編集 小川郁/喜多浩子/高宮信三郎/
永井薫/日高美南子/松岡直子

題字: 竹内尚代

レイアウトデザイン: 井之上聖子

発行部数 1,200 部

共同代表 岡崎一成/菅沢博

事務局 練馬区南大泉 1-10-5

03-3923-8430 菅沢博

※この会報は年3回発行しています



※前号の新リレー連載で掲載した図で、優先整備エリアとした区域は都の整備方針改定により外されています。訂正してお詫びします。